

元気モリモリニュース



流れ星

～オームタ・イルミネーレ～
 今年で、2 年目。一歩ずつ、一歩ずつ、大きく育て、三池竹光のように、大牟田の風物詩になって欲しいものです。

シテイプロモーション事業

「石炭のまちから、ふつうのまちへ。」15 年前に大牟田へ帰ってきた当時、よく耳にした言葉です。今、大牟田は、何のまちでしょうか。

「化学工業のまち」「饅頭王国」「世界遺産のあるまち」「駅伝のまち」などなど。人により、思いは様々あると思いますが、大牟田市は、人口減少を食い止めるのを一番の課題としていますので、定住人口の増加につなげるシテイプロモーションをしてほしいと思います。

今、シテイプロモーションは全国的にブームとなっています。大牟田市のシテイプロモーション戦略のイメージ資料では、

目的 大牟田市への愛着と誇りの醸成

大牟田市の知名度・認知度の向上

目指す都市ブランドイメージ ロゴ、シンボルカラーの設定

となっております。

大牟田にある様々な宝物を、シンボルカラーやロゴマークで統一的に発信するだけでは、もったいないと思います。

私たちが行う選挙も、プロモーションのひとつだと思いますが、知名度の向上は目的ではなく手段であり、あくまでも、目的は、投票していただき当選することです。そういう意味では、主目的は、定住人口の増加（少しでも減少を止める）だと思います。

市長は、人口減少対策として、雇用対策と子育てしやすい環境づくり・教育の 2 つに力を入れると選挙以来、一貫して主張されています。私も、大賛成ですが、となれば、

「子育てしたいまち」

「子どもに教育を受けさせたいまち」

としての魅力を中心に磨き上げて、発信していくべきだと思います。(もちろん、それだけに固執するものではありません)

都市ブランドの構築には、息の長い、根気強い取り組みが必要ですが、

家族（3 世代）がともに暮らせるまちづくり

り

◎子供たちに確かな教育と夢を！

◎働く意欲のある人に仕事と希望を！

「大牟田市の未来を共に築いていく」



市議会6・12月定例会で質問しました

一般質問（平成28年6月17日）

- ① コールセンター事業について
- ② 近代化遺産の整備と活用について
 - ・ハード整備
 - ・ソフト整備
 - ・将来の維持管理
- ③ 防災対策について
 - ・平成28年熊本地震を受けての課題と対策
 - ・支援の受け入れ体制の構築
 - ・自治体間、各団体との協力関係

一般質問（平成28年12月19日）

- ① シティプロモーションの推進について
- ② 幼保小の連携について
- ③ 被災者支援システムの導入について
- ④ （仮称）総合体育館の建設について
 - ・公共施設マネジメントの考え方
 - ・新体育館の建設に向けて

詳しくは、大牟田市議会ホームページ（議事録・インターネット録画中継）をご覧ください。

三川坑跡の活用 ②

整備費の大幅減額

今年の3月に三川坑保存・活用計画が策定されました。整備費は、4億4668万円と三川坑跡整備基本計画の7億8700万円から

大幅に減額されました。敷地内の舗装部分の面積を減らしたり、建築物の補修などの工法を工夫したりしたとのこと。

他の石炭関連都市の状況

田川市 「炭坑節の発祥の地」これが、地元の誇りとなっている。

二本煙突を象徴として、公園が整備されている。

何ととっても、世界記憶遺産に登録された山本作兵衛さんの絵が素晴らしく、一枚一枚の解説を聞いているだけで、あっという間に時間が過ぎていくのではないかと思います。

直方市 日本の炭鉱を引っ張った筑豊炭鉱五代主の会議の議事録（原本）が、宝。

山本作兵衛氏の原画の展示（世界文化遺産へあえて申請せず）救護訓練のための模擬坑道を整備して入場可能にする予定。



① 田川市 二本煙突



② 直方市 救護訓練坑道

視察中に、直方市長が石炭記念館でマスコミ取材を受けているところに遭遇。私たちが、大牟田市議だと聞くと、「直方を石炭の聖地にします。」と意気盛んでした。

長崎市（池島炭鉱）

炭坑を肌で感じたいなら、絶対ココ。長崎市内からさらに1時間以上と遠いのが難点ですが、閉山が遅かったため、地上から地下まで、ほぼ、現役のまま残っています。（現在は、地下部分のみ公開。）やっぱり、本物はすごい。大牟田市の子供たちには、一度は訪れて欲しい、と感じました。

大牟田の特徴（売り）は何か。

まず、地の利・交通の便に恵まれていること。炭鉱に関しての特徴としては、三池港の存在、石炭化学コンビナートの発展、採炭量日本一を支えた技術と仕組み。三池争議や炭塵爆発などの歴史になると思



③ 長崎市 池島（坑内）



④ 長崎市 池島（機械操作体験）

います。

三川坑跡と石炭館との集約を

大牟田の石炭館の維持管理費は、人件費を含め、年間3000万3500万円かかっています。今後の三川坑跡の運営方法や管理費については、まだ決まっていませんが、将来、石炭館の展示物を三川坑跡に集約し、ここを大牟田の石炭の歴史・文化の発信基地として残していくのが、よいのではないのでしょうか。三川坑跡保存・活用計画は最終年度が平成41年度と長期にわたる計画ですが、7、10年後の集約に向けた検討を、今からする必要があります。それによって、三川坑跡にとっても、石炭館の展示物にとっても、末永く、後世に伝えていくが出来るようになると思います。

さすが観光先進地（長崎市）

池島を訪れた際に、長崎市の観光について教えていただきました。

- ・ 修学旅行については、学習指導要綱の変更に対応、アクティブラーニングに合わせたプログラムを現在作っている。（例えば、軍艦島を保存していくにはどうしたらいいかという課題について生徒に考えさせる。）
- ・ 旅行代理店が、学校や取引先に提案するための書類を市のホームページ上で、作成することが出来る。
- ・ シンガポールの夜景をデザインした日本人に、長崎市の夜景のプロデュースをお願いしている。（夜景を創るという発想に驚くとともに、宿泊を増やし経済効果を高めるための長期的戦略的取り組みに脱帽しました。）

新しい体育館の建設

総合体育館の建て替えの方針が、なかなか決まりません。

- ・ 公共施設の延べ床面積を10年以内に20%削減する計画であること
- ・ 市庁舎の耐震対策、新栄町の再開発、ごみ処理施設の更新などの今後多額の費用がかかる見込みであること。

この2つの状況と、機能の充実を求める声との板挟みで、行政も立ち往生気味です。私は、公共施設には、住民サービスの提供になくてはならない守りの機能と、あればより住民の満足度がまし、まちの魅力を高める攻めの機能とがあると思います。ごみ処理施設や市庁舎は前者、動物園や産業遺産・石炭館などは、後者になります。前者は、やるべきことが決まっている中で、どれだけ節約工夫できるか、ですが、後者は、節約一辺倒ではなく、将来を見据えた政策判断が必要です。

今後50年は、市民が使うことになる体育館。私は、機能を充実させる中で、コスト削減の道を探っていきたいと思います。基礎調査では、キッズルームが、30㎡から90㎡へ拡張する案が出ていますが、これも500㎡くらいまで拡張し、乳幼児が、伸び伸びと体を動かせるスペースできればと思っています。

「生まれてから、一生涯を通じて親しめる体育館」
大牟田で魅力ある施設をつくる最後のチャンスです。



荒尾市役所（耐震対策済み）



矢吹町屋内運動場 ①



矢吹町屋内運動場 ②

皆様のご意見をお知らせください。

(連絡先) 〒836-0807 大牟田市上町1-3-3-M201

電話/ファックス 0944-52-5095

(電話は留守番電話のときが多いので、よろしかったら、
メッセージをお願いします。)

Eメール mail@mori-jun.com

ホームページ http://www.mori-jun.com/

(「大牟田市議会議員 森 じゅん」で検索してください。)

